

# 仮面ライダーハツキ

紅 葉月

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

「俺の名前は、ガンバライダーハツキ!!」

『時空の歪み』を通して異世界からやって来る怪物に対抗するために政府によって作られたGRZ社。GRZ社が造り出した『プロトガンドライバー』によって、人は怪物に対抗する力を得た。

16歳の青年、紅 葉月は高校生でありながらガンバライダーである。

ガンバライダーは世界の崩壊を止めることは出来るのか…

# 目次

0話

ガン  
バ  
ラ  
イ  
ダ  
ー

1



# 0話 ガンバライダー

「ハアツ!!」

「グアアツ!! 一体何なんだ貴様はツ!!」

「こつちが聞きたいね、いきなりやって来て街の人々を襲うとは…」

ゆかり! 相手の

スキヤンは完了したか?」

「はい、データベースには載っていませんでしたが弱点は腕と炎と推測されます。ガンバソードを生成します。」

そこには二人の人ではない何かが立っていた。一人はまるで蜘蛛のような顔をした異形の『怪物』

もう一人は緑の鎧を纏った『戦士』

「ガンバソードの生成が完了しました。」

『戦士』が身につけているベルトから若い女性の声が聞こえたと同時に『戦士』の手には剣が握られていた

「でやあああ!!」 ザシユツ

『戦士』が剣を振ると『怪人』の腕が地面に落ち、泡となって消えていった

「よ、よくもこの俺の腕をオオオオ!! 喰らえッ!!」 ブシユウ

「うおっ、ガンバソードが溶けた!？」

「俺の毒針は金属をも溶かすのだ!!」

「厄介だな…まあ、次で終わらせてやるぜ!! 『バーストエンジン!!』」

『戦士』がそう叫ぶと全身から光が溢れ出し、背中に大型のスラスタが現れた。

「ハアアッ!!」 ダツ

『戦士』が地面を蹴り、空中で一回転した。

『怪人』には一瞬、『戦士』が太陽に重なって見えた。

「『ガンバライダーキック』!!」

『戦士』がそう叫ぶと、スラスタが火を噴き『怪物に』キックを喰らわせた。

「ガアアッ!! …覚えていろ…この世界は…」

『怪物』が何かを言いかけたが、最後まで言わず泡と共に赤い液体となって消えた。

「葉月、さっきの怪物最期に何か言いませんでしたか？」

「何も聞こえなかったけどなあ…あつ! やべえ! もう9時過ぎてるじゃねーか!」

ドライバーを外した『戦士』は鎧が光の粒となって消え、青年が姿を現した。

彼がポケットから出した携帯端末の画面には

『09:15』と表示されていた。

「1時間目の授業には間に合わなさそうですね。報告は私が出しておきますので、早く高校に。」

「おう…1時間目物理かあ…ただでさえ理解出来てないのに休むと定期テストが危ういな…」

彼は近くに停めてある原付バイクに跨り、高校へ向かった。

『ガンバライダー』

それは異世界より現れた怪物に対抗するためにGRZ社が開発した変身ツールである。

彼、紅 葉月は17歳にしてガンバライダーの一人である。

葉月は怪物を倒した後、2時間目の数学の授業に間に合うように原付を走らせた。

「この調子なら間に合うな！少し時間も余るしコンビニでも寄つてくか？」

葉月は合間を利用してコンビニに寄ろうとしたが、突然前方に『時空の歪み』が発生した

「なっ……！何だこは!!」

葉月は避けることが出来ず、後ろを見ても既に入った道は無く、前方には恐らく別の世界に繋がっているであろう道が続いている。

「これ、怪物が出てくる時の穴に似てるなあ……とりあえず外に出よう。」

葉月は次第に入った時と同じような穴を見つけ、たどり着いた

「着いたつと……つてうわあ!!」

葉月が辿りついたのは整備されたゴルフ場だった。そしてそこである物を目にした。

「ティ………ティーガーIIじゃねーか!!まさか本物を見れるとは!!」

戦車や戦闘機、ロボットなどが大好きな葉月は戦車を目の前にして興奮していた。あまりの興奮に何故目の前に戦車がいるのかなど全く気にしていない様子だった。

葉月がいきなり目の前に出てきたため動きを止めたティーガーIIのキューポラから一人の人間が顔を出した。

「貴女、見ない顔だけど黒森峰か大洗の生徒かしら？悪いけど今は戦車道の練習試合の途中なの。迷ったのならそっちの道から外に出なさい。ともかく此処は危ないわよ。」

「戦車…道…?」

葉月はキューポラから出てきた人が少女で唾然としていた。

f i n e .

次回

「黒森峰学園にてアマゾン反応を確認、駆除班は直ちに出勤して下さい。」

「俺以外のライダー…?」

「何なのよあの怪物…もう一体の怪物が助けてくれたけど…怪物の血が大量に被るし、

『菌』でも入ったらどうすんのよ…」

「アマゾンツツ!!」

【P A N Z A R   A N D   A M A Z O N】